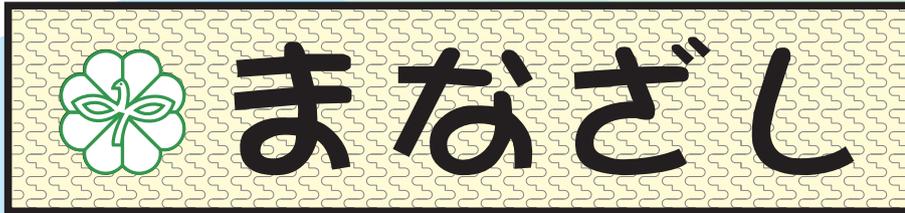




秦野市社会福祉協議会のHPから閲覧  
できます



秦野市民生委員児童委員協議会

【発行人】 田村 正一

【編集】 広 報 部

【連絡先】 〒257-0054

秦野市緑町16番3号

TEL 0463(84)7711

## ～ 児童ホームの紹介 ～

児童ホームとは、保護者（父母、祖父母等）が就労、疾病等により昼間家庭にいない小学校1学年から6学年までの児童について、放課後等に適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図ることを目的として開設された施設です。

当該施設の設置状況については、公立児童ホームは市内13の小学校で延べ30教室です。

（民間学童は7事業者により20教室あります）

児童ホームには先生と呼ばれる支援員、補助員が子どもたちの面倒を見ています。先生は、子どもたちの面倒を見るうえで、豊かな人間性と倫理観を備え、常に自己研鑽に励みながら、必要な知識や技能を持つことを大事にしています。



児童ホームや民間学童では小学1年生から6年生の児童が入室しているため、年齢の異なる児童と集団生活の中で接することで、生活の基本的なことを学び、様々な経験を通して、子どもたちの自主性・社会性・協調性・創造性を培うことができます。

また、各児童ホームや学童には特色があり、通常の日課のほか新聞紙などを使ったぬり絵遊びや学年の異なる児童間の交流など、子どもたちが

安心安全に楽しく過ごせるよう、それぞれのホームで工夫しています。

さらに、保護者会等を実施し、運営方針や保護者との意見交換を通して連携を深めるとともに、保護者の意見や要望が反映できるよう運営しています。

子どもたちの成長はもちろん、先生も子どもたちと関わっていく中で、学ぶことや成長することがたくさんあります。しっかり褒めるときは褒め、時には厳しく叱り、学校と家庭のあいだの時間を子どもたちと一緒に過ごし、子どもが「早く児童ホームに行きたい」と感じられる場所を目指しています。

児童ホームでの一日（例）	
時間	通常
7:30	下校時間に合せて 開室します
9:00	
10:00	
12:00	開室
13:00	下校後登室 宿題など
14:00	
15:00	
	おやつ
16:00	外遊び・室内遊び
17:00	
19:00	閉室

※ 児童ホームに関する問い合わせ先  
秦野市こども健康部こども育成課  
TEL 0463-86-6270

## ～ 主任児童委員部の活動 ～

秦野市民生委員児童委員協議会主任児童委員部では、乳幼児から青少年世代までの見守り活動とともに子育て事業を地域の皆さまに利用して頂くお手伝いをしています。主任児童委員は12地区の民見協に各2名、計24名います。定例の部会議は年10回程の開催で、情報交換、児童相談所・里親・養護施設の研修等を行っています。市のこんにちは

赤ちゃん訪問事業は、年12回あり、第2子出産後のご家庭を訪問して母子の様子を伺い、市の子育て情報をお伝えしています。今年度はお休みしていますが、「ふたごサークルさくらんぼ」の活動もサポートしていました。11月3日の市民の日では、民生委員児童委員コーナーにて児童虐待防止運動を担っています。

（次ページに続く）

### <委員の特色>

委員24名の内、本市の出身者は12名で他の市町村出身者と半々です。以前から子どもに関する仕事への従事者が多く、現在も半数が仕事を持ち、子育てや介護中の方も！（孫育て中も多数）

### <各地区での活動状況>

#### ○民児協主催の子育てサロンなど

就学前の乳幼児とその保護者が対象で、遊び、交流、相談の場を提供し、ほっとして頂くサロンです。市内7地区で開催していますので、状況は市のHPや子育てサポートブックをご参照ください。開催地区の担当は主任児童委員が多く、ポスター、チラシ等で周知しています。



<ママとキッズのほっとサロン>

### ○教育機関等との連携

園や学校を訪問する地区や定例会に校長先生方が出席して下さる地区があり、いずれも学校の様子を伺い、登下校時の見守りの依頼、虐待や不審者情報等に対応しています。

#### ※関係機関及び会議等

- ・中学校区子どもを育む懇談会
- ・地区青少年活動推進部会
- ・小中学校運営協議会
- ・公民館運営協議会
- ・地区社会福祉協議会関連

上記の外、ひまわり運動や子ども食堂、フードパントリー、更には子ども110番の家やコミュニティ保育グループ、地域の学習支援などを行っています。

### <主任児童委員になってよかったと思うこと>

- ・人間関係の輪や知識見聞が広がった
- ・子どもたちの成長が見られるとともに学校とのつながりができた
- ・未来を担う子どもたちの様子に更に関心を持つようになった など…

以上のように、秦野市の各機関で子ども達の事業があり、主任児童委員の関わり方は多岐にわたるので、各地区の事情に合わせての活動になりますが、上記コメントのように温かい♥の持ち主ばかりですので、今後共、主任児童委員の活動にご理解とご協力をお願いいたします。



## 渋沢地区高齢者支援センターの活動に向けて

### ～連携～



「すぐわかるのよ。サロンやいろんな会に出なくなると、身だしなみが乱れて、家の中が汚れていく」

昨年の支援センターと民生委員の皆様との事例検討会で、ある民生委員の方の何気ない一言です。

この発言は、日常の地域活動の場面で、いち早く認知症のサインを察知できるというスキルの高さが感じられ、地域を基盤とする民生委員の皆様が存在を再認識する機会ともなりました。

現在の高齢者支援センターをめぐる地域課題は、貧困や高齢者を支える家族の問題など、これまでの想像をはるかに超えて複雑で重層的となっております。

課題解決に向けて連携している機関は、数多くありますが、高齢者の変化や本音に近い存在として毎日の配食サービスや移動販売などの民間事業者の方、自治会や長寿会、中でも民生委員の皆様との連携は支援センターにとって、必要不可欠なものとなっております。

今後は医療や介護が必要な高齢者がますます増えて、あの頃はまだよかったと感じる時がくるかもしれません。

高齢者や誰にとっても住みやすいやさしいまちを目指して、高齢者支援センターと民生委員の皆様とで一緒に協働して前進することが何より大事なことでと考えております。



〔住所〕 秦野市渋沢1124-5 〔TEL〕 0463-79-6532

## 堀川地区 未就園児の芋ほりイベント

堀川民児協児童部会は、コミュニティ保育「すくすく」と年間を通して交流しています。

その中で、民児委員が主体に行った行事が「民児委員と遊ぼう」と「芋ほり」です。とくに「芋ほり」は、子どもたちに人気な行事で、民児委員の中には『芋じい』と呼ばれる委員がいるほどです。

さつま芋は地域の方が子どもたちのためにと快く畑を提供し、苗植え、草取りなどを一手に引き受けてお芋を育ててくれています。

今年の芋ほり当日は児童部会以外の応援もあり総勢9名の民児委員が参加しました。少し早めに集合し、芋のつるを取って掘りやすいように準備しました。子どもたちが来ると、民児委員から子ども用軍手のプレゼント。それをつけて慣れない芋ほりに挑戦。最初は恐る恐るな子どもひとつ芋が出ると、驚きとともに楽しさが増しどんどん掘っていきます。中には長靴&軍手デビューで、芋を掘るまでには至らなかった子もいましたが、お母さんからは「初めての畑での土いじりを楽しめてよかった、次回の成長が楽しみです」と喜びの言葉が聞かれました。

他にも「赤ちゃんだった妹を民児委員さんが抱っこしてくれたおかげで、お兄ちゃんと一緒に楽しく収穫できました」「普段、土に触れる機会があまりないので芋ほりを通して、土に触れ、自分で収穫する体験ができ、親子ともども楽しめました」と大好評でした。

収穫したお芋はみんなで分けて持ち帰り、おうちでは、カレーやお味噌汁に入れたり、フライドポテトやスイートポテト、甘煮にしたりと沢山の調理法で味わってもらえたようです。

一方、民児委員からも「子どもたちが夢中で掘っている姿を見ると楽しい」「子どもの笑顔が印象的、やってよかった」と声が聞かれました。実際、いろいろなコミュニティ行事に参加すると、おうちの人の頑張りや愛情、子どもの快活な姿に、こちらが元気をもらいます。

これからも芋ほりをはじめ地域のつながりを大切に、子どもたちを応援できる活動を続けていきたいと思えます。



<たのしい芋ほり>

## 北地区横野長寿会「刃物研ぎ部会」の活動

北地区横野長寿会「遊喜会」の「刃物研ぎ部会」では、『戸川砥（秦野産砥石）』保存・普及チーム代表藤本節男氏による指導の下で、戸川三屋生産森林組合の許可を得て砥石の原石を採取し、砥石を作りました。

水無川上流で採取した砥石の原石は優れた性質で、荒砥石と中砥石を作り、参加したメンバーが保存しております。

この部会では、横井部会長を中心に、北公民館で毎月第4火曜日10時～12時、包丁、鎌、枝切り鋏、鋸等多種の刃物を無償で砥いで喜ばれております。

なお「遊喜会」では、この他に「健康麻雀教室」「カラオケ教室」「将棋教室」「手芸教室」「お茶飲み会」「体操教室」「料理教室」「卓球教室」「北老連ダンベル体操」「クオリティ」が開催されております。

<採取した砥石>



- 一番左のスマホと大きさを比較
- 一番右は表面を平らにしたもの



<刃物研ぎの様子>

## われらの仲間 (第9回)

この欄では、特技や趣味などを持った民児委員を紹介しています

林 ひろみさん (末広地区民児協)

## ～ハンドメイド～



私は民生委員・児童委員になってから、もうすぐ2年になります。末広地区の山谷を担当し、部会は、児童部会と広報部を兼任しています。初めてのことばかりで、戸惑う事もありましたが、たくさんの学びや出会いがあり人生の糧となっています。

私の特技はハンドメイドです。今までに裁縫をはじめ、再生紙を原料とした紙バンドの幅を変えて作るエコクラフトやビーズアクセサリー作り・編み物・つまみ細工など、たくさんの物を製作してきました。その中でも一番好きな事が裁縫です。好きが高じて、洋服の直しを頼まれます。

最近では、食べるのが大好きな孫のためにフェルトを使いフルーツパフェやハンバーガーを作りました。完成品を見ると、孫はスプーンを取りに行き「食べたい!」とねだるほどの仕上がりです。

次は孫の好物のお寿司を作ってあげたいと思っています。今から孫の反応が楽しみです。



&lt;フェルト手芸&gt;

私の特技で周りを笑顔にできることにやりがいを感じ、今まで続けることができました。他にも製作したい物があり、時間が足らず困っています。

これからも挑戦する“心”を忘れずに、自分の好きを広げていけたら良いと思っています。

「人生は一度きり、だから楽しむべきよ」ですね。



&lt;つまみ細工&gt;

## 編集後記

## ～情けと挨拶は自分から～

コロナも収まりつつあり、外出もマスク付きですが、気持ちよく出かけられるようになり、ほっとしています。そんな時思い出すが、父の言葉です。

私が生まれたのは熊本県の荒尾という港町でした。夕方になると父が、「散歩に行こう」と私と弟を誘いました。父と散歩に行くのは楽しみで、夕焼けを見ながら、海辺へと話しながら歩きます。「誰が正しいかではなく、何が正しいかを考えなさい。だからお父さんが正しいんだよ。」(笑い)とこんな感じで・・・

小さい時から、「情けは人の為ならず、自分のためのもの」「挨拶は元気よく自分から」と言われて育ちました。

民児委員になって本当にそうだなと感じています。朝の小中高生の見守りでは「おはよう」と声をかけると子どもたちからも「おはようございます」と返ってきます。お年寄りの見守りも、私より10歳も20歳も上の方から元気がもらえます。私もまだまだできると思わせる力があります。

そんな中で広報の仕事についていくのはやっとなのですが、話を聞いているだけでも勉強になります。

これからも、もっと楽しく役に立つ紙面にして、皆さんに親んでもらえるようにお手伝いしていきたいと思っています。

K.Takahashi